

## イタリアの選挙制度改革が前進

発表日：2017年10月11日(水)

～五つ星運動に不利な改正案～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

◇ イタリアでは5月の選挙制度改革案が無記名投票による反対で実現しなかったため、新たな改正案は信任投票に諮ることを決定。プレミアム議席が廃止され、政党会派での比例票配分が認められる新たな改正案は、政権奪取の機会を窺う反体制派のポピュリズム政党・五つ星運動に不利に働く。五つ星運動の政権奪取を阻止できる可能性が高まるが、左派・右派双方ともに政権発足に必要な過半数の議席を獲得することは困難。挙国一致内閣かテクノクラート政権が誕生する可能性が高い。

ジェンティローニ首相が率いるイタリアの民主党（PD）政権は10日、検討中の新たな選挙制度改革案を信任投票に諮ることを決めた。法案成立には上下両院で信任投票の可決が必要となり、下院での初回と2回目の投票が11日に、3回目の投票が12日に予定され、これらを通過すると改正案は上院に送られる。5月に検討された選挙制度改革案の議会採決は無記名投票で行われ、協力を約束した政党所属議員の一部が反対に回り、廃案に追い込まれた。今回は記名投票の信任投票を用いることで、必要な議会採決と審議に掛かる時間を短縮するとともに、部分的な反対で廃案となる事態を回避することを狙っている。

新たな改正案（提案したロサト下院議長の名前と2つめの提案であることから、Rosatellum 2とも呼ばれる）は、上下両院ともにプレミアム議席（最多票を獲得した政党への上乗せ議席の配分）を廃止し、定数の3分の2を3%以上の票を獲得した政党会派に比例配分し、残り3分の1の議席を小選挙区で選ぶ。議席獲得の最低ラインを満たしているかは政党毎ではなく、政党会派毎に判断され、他党との連携を否定している反体制派のポピュリズム政党・五つ星運動（5MS）に不利に働く。

改正案には、現政権を率いる中道左派の民主党、連立を支える中道右派の少数政党・国民の場所（AP）、中道右派の野党でベルルスコーニ元首相が率いるフォルツァ・イタリア（FI）、反移民を掲げる右派ポピュリズム政党・北部同盟（LN）が賛成。他方、民主党と第1党の座を争っている五つ星運動、民主党離党議員が旗揚げした左派系少数政党・民主進歩主義運動（MDP）などが反対している。両党は十分な法案審議を行わず、信任投票での法案成立を目指す政権の姿勢を非民主的と批判。だが、協力を約束している政党から造反者が現れない限り、上下両院ともに法案可決に必要な過半数を確保している。法案が成立すれば、遅くとも来年の5月20日までに行われるイタリアの次期総選挙は、五つ星運動にとって不利な選挙制度で行なわれる可能性が高まる。新たな選挙制度に対応して五つ星運動が他党との連携を模索するのか、野党立場から政権批判を繰り返す従来の立ち位置を選ぶのかに注目が集まる。ただ、仮に五つ星運動の政権奪取を阻止できたとしても、検討中の選挙制度の下で他党が政権発足に必要な上下両院の過半数の議席を確保することは難しい。再選挙となっても結果は変わらないため、右派・左派共闘による大連立政権か、テクノクラートを首相に据えた暫定政権を発足する可能性が高いと判断している。

以上